

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 2 月 16 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491500785		
法人名	医療法人社団 ひがしの会		
事業所名	グループホームえんじゅ千織り庵		
所在地	広島県福山市王子町2丁目4-17		
	電話番号	084-926-0833	
自己評価作成日	平成27年1月4日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.higashinokai.jp/
----------	---

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成27年1月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

ホームを家庭の延長ととらえ、介護施設らしくない環境を意識しています。利用者の方々と職員、またご家族様が家族のように信頼関係を築き日々の生活を安心していただけるよう心がけています。利用者様の意思を尊重し、ケアにあたっています。また地域やご家族様とのつながりを大切にしたいので、行事への参加や面会の充実を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にあり、近隣には社会福祉協議会や医師会、市保健所などがあり充実した環境である。また、公園も近くにあるので気候の良い日には散歩に出かけられ外気に触れる機会や機能維持にも努められている。日々会話を大切に考え一人ひとりの思いや細やかなニーズにも対応できるよう職員研修も定期的にも実施しスキルアップに繋げ利用者本位の支援に努めている。また、週1回作業療法士が訪問され拘縮や間接可動域、歩き方等を見られ、様々なアドバイスを、個々に合わせたケアに努められている。事業所の目標である地域との交流にも取り組まれ、回覧や地域の方の声かけがあり行事には積極的に参加し、顔見知りの関係に努めている。地域の防災訓練にも参加したり、福祉を高める会の会合にも出向くなど協力強化に努め、前回の課題であった防災訓練にも地域の方の参加が得られ、共に防災について協力し合う関係が確立されつつある。また、今では気軽に収穫された野菜なども届けてもらう等多方面に於いて理解が得られている。地域、家族と共に三者で利用者を支え合える様日々努力され、家族の様で過ごされている。事業所行事、夏祭りには利用者と共に料理を作られ、居酒屋風にし、家族や地域の方等の参加で楽しいひと時を過ごされるなど、色んな工夫をしながら明るく活気ある生活ができる様取り組まれると共に、コンセプトに掲げられている様に笑顔と温かさで包み込む家となっている。

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	が開催	今後開催の会議は参加者	の運営推	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		地震や	地域の方を交えた防災訓練				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが			○	②少しづつ増えている
		○	③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		①ほぼすべての利用者が				
		○	②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 運営推進会議への参加者が開催日程により偏りがみられる。	コンセプトを「千の想いを紡ぎ織り上げ、笑顔と温かさで包み込む家」とし、利用者様のみならずたくさんの方が集まり、温かい空間となるよう取り組んでいます。	法人理念は下より、事業所のコンセプトを作成し、目につきやすい場所に掲げていると共に個人目標を立て年3回個人目標の評価を行い原点に立ち戻る機会とし目標達成に向け日々のケアに繋げる様徹底している。	
2	(2)	火災時の防災訓練は実施できているが、地震や水害時の訓練が確実に実施できていない。 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を交えた防災訓練の強化を図り、火災以外の災害時にも対応できるようにする。	季節ごとの地域行事に参加したり、事業所の行事等にも参加が得られ、声かけも良くしてもらい理解が得られている。収穫した野菜等も持参してもらう等気軽に訪問される。又福祉を高める会の会議にも出席し地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でのテーマなどに「認知症」を盛り込んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催しているものの、地域の方の参加がまだまだ少ない。	参加者の意見を基に議題を決め定期的に開催し、家族、地域の各役員、各分野の方等の参加により、行事や状況等を報告し意見交換を行い、防災訓練の地域への呼びかけのアドバイス等幅広い意見が得られ貴重な会議となっている。感染症や口腔ケアなどの勉強会となる場合もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば市役所介護保険課を訪ねたり、包括への連絡を行い確認を行っている。	疑問点や困難事例等があれば即電話したり出向いたりしている。状況報告もその都度行い情報提供も得ている。連携が図られるよう努めている。。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 拘束に当たる行為や言葉かけについても、研修等で意識強化に努める。	法人全体の研修や内部研修で事例を基に勉強会をし、その後アンケートを取り理解を深める様取り組まれている。ミーティングでも話し合い、見守りと工夫をし、拘束のないケアをしている。週1回理学療法士のアドバイスや指導も受け、意識確認の場としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてのマニュアルを整備し、虐待防止への理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、個々で調べるにとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者あるいはご家族に分かりやすく十分な説明を行い、利用を開始していただいている。 その都度での質問についても理解・納得頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置と公的な窓口の紹介も行っている。また、玄関には意見箱の設置をし、意見の汲み取りに取り組んでいる。	電話等で状況報告をする際や更新時等に口答で聞く事もある。また、年1回アンケートを取り集計をしその結果等は家族に郵送すると共に見える場所に掲示もしている。意見や要望は職員間で共有し個々に対応し、運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月最低1回の会議にてさまざまな情報交換と意見交換を行っている。	月1回の会議の中で聞く機会をもったり、個人目標の評価を個々に行う場合に聞いたり日々気があればその都度聞いている。管理者が気になる職員に対しては声かけをし、個別相談もしている。意見提案等は共有し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を設け、話をしていることに加え、目標管理シートによる個人の目標に向けた取り組む環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	該当者には随時研修を受けさせている。また、入職時には全職員研修を受け、現場に入る仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会では、各事業所より参加あり職員同士の交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や契約時等で必要なアセスメントをとっており、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や契約時等で必要なアセスメントをとっており、不安の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時の必要性に応じ、サービスを変化させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人おひとりの想いや出来る事(役割)を大切に、共に生活し・楽しく過ごす事の出来る環境作り配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかな報告や相談を行う事で、入居されてからもご家族との絆が切れないように配慮し、新たな介護の始まりと意識して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係を保つ為、面会をお願いしたり、外出支援を行っている。	毎日訪問される家族や知人の訪問もある。誕生日には個別対応で希望を聞き実家近くまでドライブする事もある。又、繋がりのある方に連絡を取り訪問のお願いをする事もあり、今までの生活の延長線上の関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の席の配慮や関わりあいを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケースによっては利用中止となっても本人様、ご家族様の経過を追い、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回アセスメントにて出来る限り希望を伺っている。また、その後も日常の中で希望や意向を取り入れ、計画書を作成している。	バイタルチェックや日々の会話、入浴、散歩等個別での対応時、夜間眠れない時などにも聞き事があり把握した事は計画に反映させると共に職員にも口答や会議で周知し、個々に対応している。困難な場合は行動や表情で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の経緯を可能な範囲で聞き取り、周知している。 新たな情報等あればその都度フェイスシートの更新等実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のペースに合わせ、ケアできるよう、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々にあった計画を検討し、作成している。	3ヶ月ごとのアセスメントと毎日のケアプランのチェックを基にカンファレンスで職員の意見を反映させると共に家族の意見も取り入れ作成している。定期的に見直しもされている。計画書はそれぞれの家族ボックスに入れ家族の訪問時や電話等で確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をとっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせ、可能な限り対応し、柔軟なサービス提供に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や近隣のこどもたちとの関わりを行うことで利用者にも喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所での変化や異常があれば、ご家族に伝え、連携の訪問看護、主治医に報告している。	協力医の往診や週1回の訪問看護師の訪問もある。特記事項や日々の状況等も家族や医師、看護師に伝えると共に結果報告も、4者で常に共有し、記録もされ安全確保に努めている。訪問歯科対応もあり、かかりつけ医との連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があれば早期に訪問看護に報告し、判断を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は関係者と連絡を密に取り、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応の説明はケースに応じて早い段階で説明し、家族等としっかりと話し合いを行った上で取り組むことを心がけている。	事業所として何処までできるかを状況を見ながらその都度説明をし理解を得るよう努めている。研修も実施し医療面に対する知識は身につけている。重度化した場合は家族と密に話し合い希望に沿った支援に取り組むようミーティング等で常に話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や随時の指導により対応の仕方を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の実施。地域との非常災害時の連携体制は運営推進会議などを活用しながら検討中です。	毎年訓練を実施し地域の方の参加も得られ、前回の課題が達成され運営推進会議の中でも意見等が得られ協力体制が築かれてきている。地域の防災訓練へも参加し連携が図られ、地域、近隣の事業所との協力関係の構築に取り組まれている。3月に津波想定での訓練を実施する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。高齢者虐待などの勉強会を活用しながら、日常の振返りのきっかけにしている。	否定せず、生活歴をしっかりと把握し個々に合わせた対応をし、職員間でも注意し合うと共に入浴や排せつ時にも気をつける様周知している。研修も行い、馴れ合いになっても尊厳を無視した対応にならないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちら側野押し付けでなく、利用者様が極力自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日同じような流れで1日を終わらせてしまいがちなので、レクや運動などを取り入れながら一人ひとりのペースや希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や整髪など最低限の支援は出来ているが、それ以上のおしゃれに関しては特にしていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや準備などしてくださる方がおられる。その他、野菜の皮むきやもやしの根とりなど皆で一緒にする作業も、決まった利用者様であるが時折実施できている。	多くの食材で献立にもひと工夫し、見た目も食をそそる盛り付けとなっている。出来る方には下ごしらえ等職員と楽しくその人の力の発揮ができる場づくりをしている。平等に声かけをし笑い声も聞かれ、楽しい雰囲気の食事時間である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態には特に注意し、食欲が落ちている方などへの工夫やご家族様・訪問看護・主治医への報告を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、ハミガキを行っていただいている。就寝時には、義歯の消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄への取り組みに関してはまだ薄いところがあり、排泄自立への取り組みを強化していく必要がある。	自立の方もいる。表情や個々の排泄パターンでできる限りトイレ誘導をし今までの生活習慣を活かした支援に繋げる様日々心がけている。排便管理もされ不快にならないよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の把握はしているが、食べ物や工夫などの取り組みまで出来ていない。水分を多く取っていただくなどの対応にとどまっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけを行いながら、本人の希望にて入浴に誘うよう努めているが、時間帯やタイミング等がある程度決まっている。	一人ひとりの入浴回数を把握し、個々の希望を聞きながらその人に合わせた時間や入浴方法で支援し、週3回は入浴してもらっている。入浴以外は足浴で対応し、拒否の場合はタイミングや工夫をし支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理とその作用・用法等の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った対応を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等で外出の機会はあるも、日常での外出支援に関しては取り組みを強化していく必要がある。	外出計画を立て、四季の外出(花見、菊花展)等又、地域行事への参加、遠出の外出(笠岡の道の駅、動物園)をされたり、個々の誕生日には希望を聞き、ドライブや外食など思いに沿う外出支援で気晴らしと楽しみ、五感刺激となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使用に関してはこれまでケースが少なく、大半の方が持参されていない。該当ケースが出てくれば支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話は状況を判断し、掛けていただいている。手紙の要望があれば、支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁飾りやカーテンの使用などで居心地の良い空間作りの工夫を行っている。	リビングは広く、明るく、大きなソファもあり、ゆったりできる空間である。庭に続く窓も大きく自由に入りでき陽射しも心地よい。壁には季節を感じる職員のアイデア溢れる装飾品が飾られている。また、書や思い出の写真もあり、穏やかで落ち着いた雰囲気の共有の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮をしたり、ソファの活用で個人の時間を持っていただけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等は本人様が使いやすいようレイアウトしていただき、極力馴染みのものを持参していただくようお願いしている。	家族との思い出の写真や趣味の装飾品も置かれ、その人らしが感じられる居室となっている。清掃も行き届き気持ち良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来る限り行われるよう環境(設備)にも配慮している。		

事業所名:グループホームえんじゅ千織り庵

作成日:平成27年2月9日

目標達成計画

つから

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への参加者が開催日程により偏りがみられる。	今後開催の会議は参加者の偏りがなく、平均的な参加率にする。	今年度の開催日程の参加率から、来年度の運営推進会議のスケジュール(予定)を作成する。	1年
2	35	火災時の防災訓練は実施できているが、地震や水害時の訓練が確実に実施できていない。	地域の方を交えた防災訓練の強化を図り、火災以外の災害時にも対応できるようにする。	運営推進会議や消防署との連携を図り、年2回開催の防災訓練にて実施する。地域の防災訓練へも参加。	1年
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。